

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

理学研究科 物質科学専攻では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、物質の本質を論理的かつ実証的に考察・理解し、物質科学の学理を構築する体験を通じて、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物を育成します。物質科学専攻で学んだ学生がこのような人間に成長したことを、以下の資質・能力を身につけたかという視点で評価し、物質科学専攻の学位授与方針に従って修了を認定し、修士（理学）の学位を授与します。

1. 学問を学ぶ中で、思考力・判断力を高めるとともに、倫理観・責任感を身につけ、常に社会の状況と課題・ニーズを解析し、人類文化の発展に貢献する能力を有している。
2. 物質科学専攻での学びを通して、自己と他者とを尊重し、他者との対話を通して互いの理解を深め、他者と力を合わせて何かを作り上げていくことを意味する“協創”において、リーダーシップを発揮する能力を有している。
3. 物質科学に関する学びと自身の専門性を高めることを通じて、専門分野を体系的に理解し、新規の知見を見出し、また、新しい価値観の創造に関わることで、自らの人間形成を充実させ高い専門性を有するだけでなく、それを将来にわたり発展させようとする態度を有している。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

理学研究科 物質科学専攻では、建学の精神「学問による人間形成」に基づき定めたディプロマポリシーに示す学修目標に、全ての学生が到達するように、以下の方針でカリキュラムを構築します。

1. 人類文化の発展に貢献する能力を養うために、自身の専門やコンピュータ技術の習得に関わる多くの情報科目など、広い範囲の「特論科目」を設定する。その評価においては、形成的評価を適宜行い、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
2. “協創”による社会問題の解決においてリーダーシップを発揮するための科目として、能動的活動を主体とする「特論演習科目」を設定する。その評価においては、学内外の多様な評価者が関わる形で形成的評価を行い、また、各科目の特性に合わせた様々な評価方法を適用して、可否の判定を伴う総括的評価を実施する。
3. 物質科学に関する学びと専門性を深めるため、研究論文作成を行う。さらに自らの研究成果を的確に説明できる能力と合わせて、総合的な「研究力」を獲得する。また、国際社会で活躍するためにグローバルな視点と研究成果を英語で発信できる語学力を養う。研究計画の策定および研究実施の過程において形成的評価を適宜行い、可否の判定を伴う総括的評価は、複数の研究科担当教員が関わる形で、物質科学専攻が示す基準に基づき、研究成果の口頭発表および質疑応答を含む学位論文審査において行う。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）】

理学研究科 物質科学専攻では、物質科学の専門的知識と技能を享受し、主体的かつ協同的に研究・開

発に従事できる能力を涵養して、地域や国際社会の発展を積極的にリードする人物の養成を行います。
そのため以下の資質・能力もしくは志向を有する人に入学を期待します。

1. 多様な事象に理解を示し、人々の暮らしにおける課題・ニーズは何かという視点を持って、社会のルールに従って、責任感を持って行動し、自己の理想に向かって活動する意思を有する人
2. 他者との対話を通して自らを高め、他者と協力して社会の課題に取り組むうえで、リーダーシップを発揮する意思を有する人
3. 物質科学に関する学問分野において、必要となる基礎的な知識と技能を有しており、大学または社会で学んだ教養をさらに深化・発展させて、地域や国際社会に存在する様々な課題に取り組もうと考えている人

(2024年4月入学者用)